
働き者と怠け者と壺の精霊、荒れ地にて。

唐務新斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

働き者と怠け者と壺の精霊、荒れ地にて。

【Nコード】

N7884P

【作者名】

唐務新斗

【あらすじ】

昔々、荒れ地に働き者と怠け者が移住してきました。

働き者は馬鹿正直に働きますが、怠け者には先祖代々より伝わる精霊の壺があったのです。

昔々ある荒地に、働き者と怠け者が移り住んできました。

近くに川も無い荒地を自らの住まいと定めたからには、水が必要不可欠です。働き者はバカ正直にせっせと井戸を掘り始めました。一方、怠け者はご先祖様から譲り受けた『精霊の壺』を取り出し、その蓋を取り払いました。その壺に住む精霊は、蓋を開けた者の願いを三つ叶えくれるのです。壺から姿を現したマツチヨな精霊は、ご主人様の命令を待ち受けています。

「さて、井戸を掘ってもらおうか」

働き者が井戸を完成させるよりずっと早く、怠け者の井戸が出来上がりました。

しかし、やはり普段の心がけが差を生むのか、働き者の掘った井戸の方がはるかにたくさんのお水が湧き出、しかも、それが非常に美味い水だったのです。

怠け者はそれがねたましくてなりません。さっそく壺の蓋を取り、精霊に命令を下しました。

「あいつのうちの井戸のお水を、臭い油に変えちまいな」

悪意たつぷりの表情で怠け者が叫ぶと、精霊は邪気の無い笑顔で親指を突き出しました。

俺にまかせておけ、の合図です。

こうして、働き者の井戸からみるみるあふれ出したのは、臭くて黒い油でした。すなわち石油でした。さっそく働き者は会社を設立し、パイプラインを整備して石油の供給を始め、見事大富豪へと登りつめました。

この思いもよらない事態に怠け者は怒り狂い、これで三度目となる壺の封印を解きました。ご主人様の怒りの形相の凄まじさに、いつもは陽気な壺の精霊が申し訳無さそうに身体を縮こまらせています。

「ええい、俺の井戸にも油が出るようにしろっ」

精霊は深くうなずきました。

「分かりました、ご主人様。前はご主人様が望んでおられたことを勘違いしておりました！ これ以上失敗は繰り返しません」

たちまち、怠け者の井戸から臭いぎとぎとの廃油があふれ出しました。

三回目の願いを叶えた精霊は、再び壺の中で深い眠りにつきました。その顔は、やり遂げた男の満足げな笑みが浮かんでいたのは言うまでもありません。

とっぺんぱらりのぷう。

(後書き)

勧善懲悪っていいですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7884p/>

働き者と怠け者と壺の精霊、荒れ地にて。

2011年1月4日03時16分発行